

編集後記

- 松陵会として能代高校野球部の部史の編集は初めてである。創立以来77年の歳月も過ぎ、他界された方々も少なくない。その意味で本史では球史の“生き証人”に数多く登場願い、能中・能高野球部の流れを忠実に伝えることに重点をおいた。しかし、戦前・戦後の資料の乏しさや依頼原稿の未到着等から十分意を満たすことができなかった。
 - 題字を揮毫された佐々木満氏（15期）、カットを寄せてくれた戸松恭一氏（29期）、編集部の依頼に応えてくれた会員各位、随分無理なことをお願いしたにもかかわらず、期日までに間に合わせてくれた大勝堂印刷、資料蒐集にご協力いただいた能代市立図書館や北羽新報、その他多くの方々のご援助によってどうにか発刊にこぎつけることができた。深甚なる謝意を表したい。
 - 扇風機にかじりつき、冷房に浴しながらも暑い暑いと言っている同一人が、あの灼熱の炎天下の球場で何時間も高校野球を見ている光景を目の当たりにするにつけ、野球の持つ魅力の甚大さに改めて驚嘆する。その魅力が選手にも観戦者にも強力に作用して高校野球は展開されてきたのである。
 - 原稿を拝見しながら、ふとフランスの思想家、ボルテールの言葉「眞の欲求がなければ眞の満足はない」を思い出した。目標を求めて不斷の努力を重ねる者にとって、その尊さを教えてくれたのが多くは他ならぬ負け試合だったというのである。松陵健児の不撓不屈の魂を見せつけられた思いがし、目頭を潤ませることも度々であった。
 - 今年から甲子園につながる秋田大会の会場に能代球場も選ばれた。スコアボードも電光掲示になった。数々のドラマを織り込んでくれるだろう。何か「えにし」を覚えてならない。
 - 編集作業も終盤になった7月上旬吉報が届いた。高校野球の優秀な指導者を讃える日本高野連の今年度の「イヤー・オブ・ザ・コーチ」に太田久松陵会会長が選ばれるという。
- 7月16日の開会式で表彰された。誠に喜ばしい。おめでとう。
- この小史が松陵会員の一層の交遊を深め、今後の能代高校野球部の更なる発展に寄与してくれればありがたい。

〈編集責任〉 金 晴 隆
〈編集委員〉 太 久
 大 夫
 秋 茂
 元 正
 八 修
 代 一
 伊 紀
 藤 美 男